



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第29主日 C年 (2022年10月16日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：出エジプト記 17章8—13節

第二朗読：テモテへの手紙二 3章14節—4章2節

福音朗読：ルカによる福音書 18章1—8節

## いつまでほおっておかれることがあるだろうか

今週は福音朗読だけに注目してください。福音朗読は「不正な裁判官」のたとえ話です。イエスさまはエルサレムへの旅の途中にあります。ファリサイ派の人々が「神の国はいつ来るのか」と問いかけます(17章20節)。その答えは「神の国はあなたがたの間にある」(21節)でした。そして、イエスさまはお弟子さんたちに「人の子の日」(22節)について教え始めます。それは「人の子が現れる日」が来るという教えです。つまり、神の国の完全な到来までは、まだしばらく猶予があるとします。そして、今日の福音朗読でやもめと裁判官のたとえ話をを用いて、「人の子の日」まで祈り続けるようにと勧めるのです。

まず18章2節の「神を畏れず人を人とも思わない裁判官」について考えてみましょう。イエスさまの時代のパレスチナ地方の裁判官制度は複雑でした。ローマ帝国は日常の些末なことは被征服民(他の民族や国家に領土を征服された人)であるユダヤ人たちの習慣に任せていましたので、このたとえ話に登場する裁判官とは律法の規定に基づいて人々の訴えなどを裁く、そんな裁判官のことです。「ある町に」とありますから舞台は小さな町なのでしょう。そして、小さな町では一人の裁判官が仕事にあたっていたそうです。聖書の中には裁判官の不正を糾弾する箇所がいくつありますが、裁判官の不正は横行していました。彼らは権力者や富裕層の側に有利な裁判を行っていました。しかし、裁判官の本来の務めは、神さまが求められている正義が律法を通じて実現するように裁きを行うことです。しかし、「神を畏れず人を人とも思わない」という表現には、一見公正な裁判官として善人ぶることなどせずに、露骨に権力者の側に組みする裁判官の姿が含まれています。つまり、賄賂を多く支払った側に有利な裁きを行う裁判官なのです。

裁判官の対極にいる「やもめ」(3節)にも心を留めてください。やもめとは配偶者と死別した女性のことです。寡婦と言います。寡婦は孤児、寄留者(異国の民)と共に社会的な弱者の象徴でした。聖書(旧約聖書)では彼らは抑圧された者、保護されるべき者として描かれています。

しかし、実際のところは寡婦の多くは困窮し、生きるか死ぬかのぎりぎりを生きていたと考えられます。それは、夫の遺産(土地、家屋)の相続をめぐる争いに敗れたからです。そして嫁いだ先から不当に追い出され、路頭に迷い、餓死に直面することが現実にあったのです(例えば列王記下4章1-7節参照)。『ルカによる福音書』では、イエスさまがナインの町で小さく生きる寡婦とその一人息子の棺が担ぎ出される場面に行きあたります(7章11-15節)。その他にも「やもめの家を食物にし」(20章47節)と律法学者を非難しています。そして、貧しいやもめが持てるものすべてを神殿の賽銭箱に入れる様子を見えています(21章1-4節)。

3節に「相手を裁いて、わたしを守ってください」とあります。

岩波訳の聖書は「私を訴える者から私を擁護してください」となっています。フランシスコ会訳は「どうか、わたしの敵を裁いてください」です。

「裁判官のところに来ては」の「来る」はエルコマイの未完形ですから、ずっと来続けたという意味があります。このやもめは不正な裁判官のところは何度も何度もやって来ては訴え続けたのです。新共同訳の「相手」と訳された言葉はアンティディコスです。これは法廷用語だそうです。原告であろうと被告であろうと、裁判で争う相手のことを指しました。「守ってください」はエクディケオーという単語ですが、大変広い意味のある言葉だそうです。そこで、上に指摘したように、訳に幅ができるのです。「立証してください」が一番適した訳かもしれません。

## 説教：いつまでほおっておかれることがあるだろうか

7節の「いつまでほおっておかれることがあるだろうか」は原文ではたったひと言、マクロテュメオーです。岩波訳ですと「彼らをただ長く放擲しておかれるだろうか」となっています。この単語は例えば『出エジプト記』の一節、「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち」(出34章6節)のギリシア語訳で「忍耐強い」に当てはめられています。神さまは「忍耐強く」待っておられます。神さまの忍耐は人間の悔い改めのためです。人間が神さまのもとに戻ってくるのを「忍耐強く」待つのです。すでに悔い改めて「昼も夜も呼び求めている選ばれた人たち」のためには神さまは待つ必要はありません。すぐにでも圧政、圧迫から解放してください。続く8節は「しかし」という逆接の接続詞(ギリシア語ではプレーン)で始まります。人が子が来られるまで、「呼び求める」信仰があるかどうかをイエスさまは心配されています。